例年、九月号は保育学会の研究発表にあててきたが、本年は例年のしきたりを破ることになった。日本保育学会の第一回の大会以来、第二回を除いて、毎年本誌を通じて保育学会の研究が印刷されて残されてきた。しかし、本年からは保育学会が独自の年報をもたれることになったので、大会の研究報告もそれにふくめられることになったわけである。幼児保育という未発達な分野の学会が独自の発表機関をもたれることは学会の発展であり、斯界にとっても悦ばしいことであり、本誌もまたその喜びをともにするものである。

幼児保育という分野は、とかく常識でかたずけられやすい。学問的基礎の必要を認める人もすくない。しかし幼児保育がどのようになされるかによって、人間形成のされかたもかわり、したがって社会もまたかわってくるのである。人間の問題、社会の問題を重視するならば、当然、幼児保育も重視されねばならない。もっと学問的な基礎を求め、どのような保育がもっとも正しいものであるのかを明らかにしなければならない。保育の実際が、しきたりと常識によって動かされるのではなくて、もっと考えながら、保育者自身が保育の経過を客観的に検討しながら、幼児の教育としてもっとも適切な方法を発見しながらすすむものでなくてはならない。無考えに、伝統と流行に流されるならば、人間の形成と社会の形成に誤った礎をつくることになることを恐れる。保育学の理論的研究がもっと発展すること、それから、すべての保育者が保育学の一端をになっていることを自覚して、研究的に保育の一歩一歩をすすめることが現下の保育界の急務である。それが正しい保育をつくってゆくのであると思う。

本誌は今までも幼児保育の学問的基礎をつくることにつとめてきたが、今後もますますその方向に努力したい。それは決して実際をはなれるということではなくて、むしろ、もっと実際とうらおもてになりたいのである。どのような分野でも言えることだろうが、幼児保育学というような分野ではとくに、正しい実際をつくることが大きな目的だからである。それは日本の現在の幼児の幸福と人間形成を左右する大きな問題でもある。そう考えるとき、私どもは、大きな誇りをもってこの仕事にはげむことができるし、また、大きな責任を感ずる。

読者の皆さんと一しょに、よりよい保育の形成に力をつくしたいと思う。（T）

幼児の教育 第六十一巻 第九号

九月号 © 定価 六十円

昭和三十七年八月二十五日印刷
昭和三十七年九月一日発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼発行者 津守 真

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 **フレーベル館**
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購読についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。